

# 学校が変わる、開かれた学校評価

札幌市立幌東小学校

## I はじめに

### 開かれた学校評価

### 1 本校における学校評価のねらい

本校は、平成16年度に従来の学校評価の根本的な見直しを行った。学校評価は本来、学校教育の改善となり、結果として子どもの成長につながるものでなければならない。よって、本校の学校評価は、重点目標や校務分掌の係だけではなく、学年学級経営にも踏み込んだ評価とした。

また従来、学校の枠の中でしかなかった評価を子どもと保護者のアンケートを取り入れることでその枠を外に向けて開くこととなった。さらに平成18年度に学校関係者評価委員会を設置し、内と外に開かれた学校評価が確立された。

### 2 昨年度の学校評価をもとにした改善点

学校経営重点目標具現化に即した子どもの成長を共通理解とした。まず改善の意識化のために、重点目標を教師は自己と全体の立場で、さらに保護者にも応えてもらい、この三つを比較することで同一性と違いを明らかにすることとした。また、担任のきめ細かな積み重ねを行うために、形成的評価も導入した。

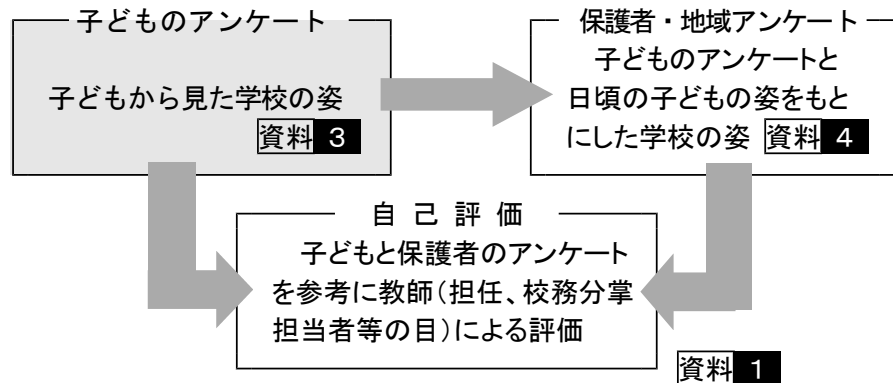
- 学校経営重点11項目の「評価の同一性と違い」を導入（教師、保護者の意識比較） **資料 5**
- 形成的評価の導入（学校経営11項目を学級経営の担任としての立場で） **資料 2**

## II 本校の学校評価システム

### 子どもを中心に据えたアンケート

### 1 自己評価と評価委員会

学校評価特別委員会では、子どもの姿と学校経営の目標から評価項目を設定し、評価体制を確立し推進する。その具体的なものは以下の三点である。



### 2 学校関係者評価

「子どものアンケート結果」「保護者・地域アンケート結果」「自己評価」を参考に、さらには、授業参観、学校行事の地域公開日等での子どもや学校、教職員の姿を基に、自己評価の実施の在り方や評価内容が適切であったかを検討し、その結果を公表する。

Ⅲ 学校評価の年間の流れ

\* 形成的評価は今年度2回、2期4節を考えると4回が望ましい。

期	月	評価	自己評価			学校関係者評価	
			教師	児童	保護者・地域		
前 期	4	形成的	・ <b>行</b> 入学式反省		授業参観懇談会	・5月の学校説明会で学校関係者評価について説明し委員を紹介する。 ・年間を通して保護者と共に地域公開日等で学校の姿を見てもらう。 ・児童アンケート集計結果を配布し、それをもとに地域アンケートに記入。	
	5		・学校説明会(学校、学年経営)		授業参観		
	6	・ <b>行</b> 運動会反省 ・ <b>行</b> 遠足反省 ・形成的評価①集計		地域公開運動会 地域公開土曜参観			
	7		下旬…アンケート調査	個人懇談			
	8	形成的		中旬… <b>集計結果</b> 配布			
	9		・3部門係検討 ・学校各学年アンケート見解 上旬… <b>中間学校自己評価全体会</b> ・形成的自己評価②集計 中旬… <b>評価結果</b> 配布	下旬…アンケート調査 上旬… <b>集計結果</b> 配布 地域公開(クラブ) 授業参観懇談会			
	10		・ <b>行</b> 体カフェスティバル反省 ・ <b>行</b> 鑑賞会反省		地域公開(児童委員会活動)		
	後 期	11	形成的	・ <b>行</b> 学習発表会反省			地域公開(学習発表会)
		12		・ <b>行</b> 六輪カーニバル反省 ・形成的自己評価③集計	下旬…アンケート調査 中旬… <b>集計結果</b> 配布		地域公開(六輪カーニバル) 授業参観懇談会
1		形成的	・3部門係検討 ・各学年のアンケート見解 ・形成的自己評価④集計 中旬… <b>年度末学校自己評価全体会</b> 下旬… <b>評価結果</b> 配布	下旬…アンケート調査 上旬… <b>集計結果</b> 配布	・児童アンケート集計結果を配布し、それをもとに地域アンケートに記入。		
2			・ <b>行</b> スキー学習反省			授業参観懇談会	
3			・ <b>行</b> 卒業式反省 ・次年度の3部門骨子提案			懇談会 各家庭に配布	
						<b>評価書作成</b>	

#### IV 学校評価の方法

##### 1 自己評価

三つの経営評価

学校評価は学校経営の改善につながり、その願いは子どもの健やかな成長にある。まずは子どもの姿を中心に据え、保護者、地域、教師の三者がそれぞれの立場で学校を見つめることで、より客観的な評価となり得るものとする。よって自己評価には学校経営だけでなく学年学級経営も含むことになる。また、保護者のアンケートには家庭教育にかかわるもの、子どものアンケートには教師の姿にも踏み込んだ内容を設定した。

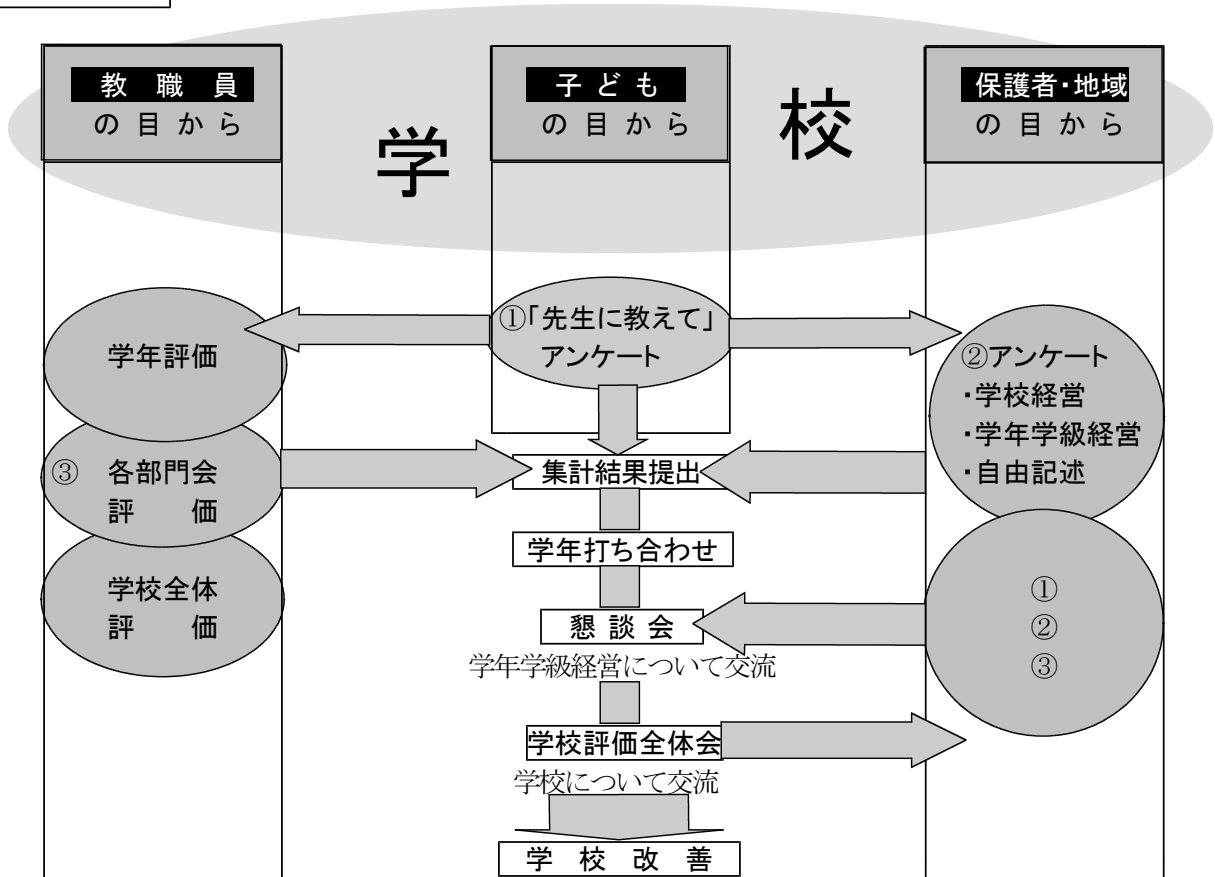
###### (1) 項目の設定

- ・ 児童の意欲を育てる教育活動の創造・地域の保護者に信頼される学校運営
- ・ 創造性のある学校運営と組織
- ・ 事務・教務・管理部門・研究部門・活動推進部門・特別委員会
- ・ 学年学級目標・教師同士の学び合い・主要教科合同学習・教科、道徳、特別活動、六輪の時間の関連・学年研修・児童理解と生活指導・移動時間割発行・学年便り発行・生活科六輪の時間年間計画作成並びに実施・資料蓄積・限られた時間での指導・読み聞かせ読書推進・全校朝会・子どもを見守る・全体の気付きと指導・歌声の時間・学級会・子どもや保護者の相談
- ・ 保護者と学校・地域と学校・教職員間・保護者と学年学級・同学年間・異学年間
- ・ 部門間・係間・係内
- ・ 公簿作成・教育課程作成・学年資料保管・行事資料保管・書類提出厳守

###### (2) 児童・保護者アンケートの実施

児童は長期休業前、保護者は休み明けに児童のアンケート集計結果を基に実施。ここで留意しなければならないことは、学校や教師に都合の良いものだけを選ぶのではなく、生の声が聞こえるようにしておくことである。この点が欠落すると学校教育の改善、ひいては子どもの成長に結び付いていかない。

評価の構造



- (3) 結果の集計と分析・自己評価書の作成  
アンケート結果と分析、学校見解は数値化グラフ化したものと文章の2つで作成し自己評価に盛り込む。
- (4) 改善策の検討  
「学校経営の重点」は学校、「学校組織」は係、「学年学級経営」は学年学級経営反省会、「内と外に開かれた学校」「情報共有と保管」は、前者も含めた全体会ですべて検討している。

## 2 学校関係者評価

- (1) 評価委員の構成と役割  
地域の方と、保護者を代表したPTA役員で構成し、第三者の立場で客観的に評価し公正を期す。(学校評議員3名、連合町内会会長2名、本校PTA役員3名)
- (2) 評価書の作成  
学校経営推進の具体化については、中間評価と年度末評価、学校関係者評価で、同一項目を設定している。地域公開日での学校の姿や子どもの姿、さらには評価資料を参考にしながら、客観的に判断できる項目に対して評価書を作成する。

## V 評価結果の公表

### 1 公表の方法

地域、保護者には中間、年度末とも印刷配布。ホームページにも掲載。

### 2 公表の効果

教職員にとっては、他者の目を意識でき、独善になりがちなものの見方に広がりや客観性が生まれる。また、保護者のアンケート結果も公表することで、学校教育に対する理解や意識が変化している。中でも自由記述は相互閲覧によって、一面的な理解から学校との相互理解へ、保護者個人の理解の枠から保護者同士の理解へと広がった。

## VI 他地域における学校評価

### 1 東京都北区立赤羽小学校の学校評価

赤羽小学校では、年に2回ほど学校評議員等に職員会議を公開し、保護者や地域に対して教育活動の理解の場を設けている。また、教育重点目標などの共通評価項目を教師だけでなく保護者のアンケートにも設定し、その二つを比較する。このことで、教師と保護者の意識の<sup>ちがひ</sup>違いを明らかにし、学校改善に活かしている。

### 2 東京都品川区立立会小学校の学校評価

区内のすべての学校共通の評価項目で学校評価を実施している。立会小学校では同一項目により他校との比較ができ、その中から改善の糸口を見いだしている。例えば全校朝会や集会などで、どの先生も子どもの前に立ったら、静かになるまで話さないといった全校共通の取り決めを実施し、その成果を挙げている。

## VII 成果と課題

### 《成果》

- ・評価結果公表により保護者や地域の学校に対する関心が高まり、学校教育へ参画する意識が高まってきている。
- ・教職員の主観的評価から、子ども・保護者・地域のアンケートによる客観的評価への意識化や対外的な説明責任と結果責任の意識化が高まってきている。
- ・形成的評価は担任にとって、学校経営の意識化や改善、参画意識への高まりとなっている。

### 《課題》

- ・学校評価の行き着く所は子どもの健やかな成長にあり、その責務は学校だけとは言い切れないのが現状である。今後は、学校や家庭、そして地域が共に手をたずさえ、それぞれの責任を果たすべく評価の在り方を考える必要がある。